

第4回

ビジネスアーキテクチャ人材の育成 に関するタスクフォース

2025年8月18日

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

独立行政法人 情報処理推進機構

第4回アジェンダ

1. 開 会 （5分）

- (1) 前回振り返り

2. 議 事 （110分）

- (1) ゲストスピーチ（40分）
- (2) ビジネスアーキテクチャ人材の人材像（50分）
- (3) プロモーション戦略等（20分）

3. 閉 会 （5分）

- (1) 次回開催のご案内

1. 開会(1)：前回タスクフォース振り返り

前回の振り返り

主なアジェンダ

- (1) 各社取り組み紹介(関西電力/麒麟)[共有/意見交換]
- (2) ビジネスアーキテクト人材の人材像[意見交換]

主なご意見

No	ご意見
1	資料「変革の進め方の2つの型（「連邦型と中央集権型」）」が刺激になった。所謂、旧来型のプロジェクトマネージャーのような人は真ん中に立っているので、どう整理したらよいかについて考えていきたい。
2	プロダクトマネージャーは認知度があるため、普及しやすい。そのようなプロダクトマネージャーが一貫して予算をとって、サービスを回していくという経営者の意思決定もあるかもしれない。1つの企業の中で、ビジネスアーキテクトの部分と、プロダクトマネージャーの部分が事業によっては両方ありなのかと改めて感じた。
3	標準形を整理した方がよい。資料「ビジネスアーキテクトとビジネスアナリストの役割における主たる活動領域の違い」がわかりやすかった。 - また、資料「PdMが特定事業・機能領域の責任者として存在している場合」と、「変革の進め方の2つの型（「連邦型と中央集権型」）」が整理されると、標準形のベースになるのではないかと思う。
4	- 資料「ビジネスアーキテクトとビジネスアナリストの役割における主たる活動領域の違い」がわかりやすかった。この考え方で組織設計をしていたと思った。BOとPdMの議論では、ビジネス側の人にBOになってもらうのは難しいと思っている。IT側にBOの相談役のような人を配置して、その人をBOと呼ぶと、PdMとオーバーラップするかと思った。 - 資料「変革の進め方の2つの型（「連邦型と中央集権型」）」は大変わかりやすい。この2つをきちんと定義されれば、小中企業なら一層、大企業なら二層のように階層を分けて使いこなせるのではないか。標準形として置いた上で、それぞれの事業会社が使用できるようになると思う。
5	資料「ビジネスアーキテクトとビジネスアナリストの役割における主たる活動領域の違い」と資料「変革の進め方の2つの型（「連邦型と中央集権型」）」は大変わかりやすい。基本形を作って言葉の定義をすると分かりやすくなると思う。
6	パターンは増やしすぎない方がいい。また、カタカナに引っ張られすぎるので、言葉の定義をした方がいい。例えば、プロダクトという言葉も定義が必要だと思う。DSSに位置づけられると、デジタルを使ったプロダクトが前提になると思う。そういった言葉の定義を行った上で、認識を合わせていきたい。
7	イメージがすり寄ってきたように思う。資料「ビジネスアーキテクトとビジネスアナリストの役割における主たる活動領域の違い」と、言葉の定義をしたら、レポートに近いものができるのではないかと思う。一方で言葉の定義は大変である。 - カタカナ日本語はその通りではあるが、ゆくゆくは海外と接続して議論したいため、やりすぎない方がよいと考えている。

2. 議事(1) : ゲストスピーチ

SAP ジャパン株式会社 カスタマーアドバイザリー本部
シニアソリューションプリンシパル 中野 浩志 様

テーマ

■ テーマ

- SAPのビジネスプロセス（ビジネスアーキテクチャ）構築事例

■ 内容

- SAPが過去、自社のビジネスプロセス（ビジネスアーキテクチャ）管理体制をどう構築していったか
- SAPのプロセスマネジメント（プロセスオフィスの体制）や、SAPとしてのビジネスアーキテクチャへの認識

■ 狙い

- ビジネスアーキテクチャ人材が抑えるべき視点について示唆を得る

■ 進め方

- ご説明：20分
- 質疑/意見交換：20分

2. 議事(2) : ビジネスアーキテクチャ人材の人材像

山本主査より

参考資料：榊巻委員 討議用資料.pdf

参考資料：一條委員・田畑委員 討議用資料.pdf

2. 議事(3) : プロモーション戦略等

検討テーマ

No	検討テーマ	内容
1	当事者(実践者)のアイデンティティ確立	ビジネスアーキテクチャ人材当事者の育成においては、変革の実践と適切な経験者・コーチとの協業によるソフトスキルの育成が欠かせないことから、実践者コミュニティでの交流などを通じ、役割の共通認識化や、キャリア意識を醸成する施策を検討する
2	企業内での新ビジネスアーキテクト体系の認知の向上・定着に向けた後押し	ビジネスアーキテクチャ人材当事者への啓発だけでなく、企業経営者に役割の必要性を認知させつつ、専門人材(特にジョブ型雇用において)育成の枠組みを作るために、企業経営者コミュニティ構築や、「DX認定」や「攻めのIT銘柄」のような)組織認定制度を作り、後押しするやり方を検討
3	プロモーション戦略	DSS改訂およびビジネスアーキテクチャ人材育成施策に関するプロモーションをどういうスキームで行うか ・民間主要団体等と連携した啓発活動 ・モデルコンテンツ制作

3. 閉会